Book Review

迷える歯科衛生士に届けたい
ブラッシング指導物語

丸森英史　編著
丸森郁美・成井香・河原なつの・澤田恵・小泉百合・丸森史朗　著

A4 判変，176 頁
オールカラー
定価 6,930 円
医歯薬出版刊

Reviewer
大野純一　Junichi Ono
（群馬県・大野歯科医院）

丸森英史先生とスタッフの方々が素敵な本を出されました．

患者さん自身のプラークコントロール（歯磨き）は齲蝕や歯周病の治療や予防において最も大切なものであることは，専門家であれば異論はないでしょう．しかし，患者さんの日常生活においてはしばしば最優先事項になりえないため，この認識の違いでわれわれは苦労することがあります．そのズレを埋めるにはどうしたらよいかが本書では多くのケースを元に示されています．

全体を通して本書の根底に一貫しているのは，患者さんの健康をサポートするための健康教育の方法論として，ブラッシング指導が語られている点だと思います．

特に，患者さんとのやり取りの様子が「SOAP」という医療では一般的な形式で記録されている点は，多くの歯科医院が見習うべきでしょう．患者さんが何を訴え，専門家は何を診て，それに対してどのような考えをもったか．そして，その後何をすべきか．その流れを記録し，チームでディスカッションしていくことはチーム医療のためには必須だと考えられます．

また，本書の中で私が最も感銘を受けたのが，丸森先生が述べている「ブラッシング指導には構図がある」という意見であり，それが「見取り図」として本書に描かれています．臨床現場の歯科衛生士の皆さん，そして歯科医師の皆さんにぜひここに注目してほしいと思います．

私の診療室でも毎日のようにブラッシング指導（当院では口腔衛生指導と呼びます）を行っています．主にパートナーである歯科衛生士が行いますが，小さな医院ですので，私が行うときもあります．

ご存知のようにブラッシング指導にはさまざまな方法があり，それぞれの専門家，それぞれの医院で違うアプローチをしているかもしれません．それがうまくいっているのであれば，それはそれでオッケーでしょう．患者さんの口腔内の状態は一人ひとり異なり，多様な生活背景と価値観をもち，さらには来院する患者さんの層もそれぞれの医院ごとに異なるからです．したがって，ブラッシング指導に関しては共通のマニュアルや方程式は存在しえず，いろいろなアプローチがあってもいいのだと思います．

ただし，ブラッシング指導や口腔衛生指導を担当する専門家にとって，必須の「前提」があります．それは目の前の患者さんに「興味をもつ」ということです．興味が湧けば，いろいろなことを訊いてみたくなりますし，また患者さんがお話してくることをもっと聴いてみたくなります．「相手に興味をもつ」ことは指導の場ばかりでなく，コミュニケーションの達人が共通してもっている資質でもあります．

本書を読んで最後に思ったことは，丸森先生はじめ丸森歯科医院のスタッフの皆さんは実に患者さんたちに興味をもって接されているのだろうなあ，ということです．読者の皆さんも同じように感じるのではないでしょうか．